

寅さん歩 その14

東京に こんなところ-17



平野 武宏

首都東京は徳川幕府の江戸から明治維新へ、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、1964年（昭和39年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と時代と共にその姿を変えています。そして2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎、「東京に こんなところもあるのだ！」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。都民歴約5年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦ください。

～ アメリカ文化が根付く街 福生 ～

〔BASE SIDE STREET (ベース サイド ストリート)〕

東京都にも米軍基地として横田基地があるのは知っていました。「JR駅からハイキング&ウォーキング」でJR拝島駅をスタート・ゴールで基地の近くを歩くと知り、初めて福生を訪問しました。

表題右の写真は拝島駅前の歓迎看板です。JR拝島駅から玉川上水脇を歩き、五丁橋を渡ると横田基地の端(第五ゲート近く)に出ます。基地の脇を通る「国道16号線」沿いはアメリカンテイストなショップが並び、飲食からアパレル、アンティークグッズなど異国情緒を体感できるBASE SIDE STREET(写真下左)で、国道右側が横田基地第二ゲート(写真下右)です。



第五ゲート～第二ゲート沿いのショップです。
飲食店も国際色豊かです。



[FUSSA DOG (福生ドッグ)]

2011年「福が生まれる町」で産声を上げたグルメが「FUSSA DOG (福生ドッグ)」とのこと。福生にあるハム工場で作られたソーセージ、オリジナルのパンとソース。すべて Made in FUSSA。駅周辺のお店3軒を巡りました。(価格は税抜き)

【クラウドナインベーカリー】 福生市福生 798

「福生駅東口第二」信号前にあるお店です。粒マスタードがソーセージに良く合います。350 円。



【シュトゥーベン・オータマ】 福生市福生 785

「福生駅東口第二」信号を渡り、直進すると右手にあるレストラン。ジューシーでボリュームな一品で460 円。ソーセージの長さ 16cm(16 号線)、太さ 23cm(福生)の語呂合わせ。



【ブレッドガーデン】 福生市福生 1046

西口の「福生駅前」信号先の右手にあります。さくさくした食感のパン、ソーセージに絡む特製のサルサソースとチーズクリームは食欲をそそる組み合わせです。350 円。



福生駅周辺にはまだ2軒ありますが、腹具合と1軒は17時開店なので、今回はここまで。近くの東福生駅、牛浜駅、熊川駅周辺のお店を合わせると「福生ドッグ」の店は合計で11軒あるとのこと。「福生ドッグ」の旗が店の前に立っています。各店オリジナルで「福生」をイメージして作った「福生」の土地にふさわしい「自由」な新グルメです。価格も350円～741円(税抜)と様々です。

〔福生アメリカンハウス〕

ベース サイド ストリートの周辺には、軍人向け賃貸経営のため、地元の人々が建てた住宅の「米軍ハウス」が今でも点在しています。地元商店街振興組合がその1軒を管理して「福生アメリカンハウス」と名付け、金・土・日・祝に公開(入館無料)しています。入口(写真下左)は「牛浜北通り入口」信号の近くですが、少しわかりにくいので通り過ぎしに注意。1950年～60年代に建てられた米軍ハウスで、室内は当時の雰囲気再現しています。



[こぼれ話]

J R 駅からハイキング & ウォーキングイベント

東京に移住した当初はすぐに東京都の協会に入りませんでしたので、例会参加の機会が少ない寅次郎でした。乗り降りする山手線大塚駅に置いてあった「J R 駅からハイキング & ウォーキングイベント」の冊子を入手しました。なぜか「&ウォーキングイベント」の文字は小さいのです。

写真右は最新号 4 月～6 月号、3 ヶ月分のイベントが掲載されています。

以前からその存在は知っていました。それは F W A の藤沢七福神めぐり例会で休日の開催日が重複、互いに参加者が多い自由歩行で、コース上で参加者が入り乱れ大混雑、J R は誘導案内が少ないとクレームし、良い印象は持っていませんでした。

このイベントは主催者の J R 東日本が営業エリア地域内でハイキング・ウォーキングコースを設定、開催日（例：12 日～21 日）、集合時間（例：10 時～12 時）は幅を持たせ、参加費無料、受付でもらう

地図を見て歩くという、ウォーキング協会の例会にない自由度が高く、特に若い人、友達同士、家族連れ、団体で歩くのが嫌いな人達に人気があります。土休・祝日には約 500 名～約 1,000 人の参加者とのこと。地図を見せるとコース上での美術館、博物館、飲食店の割引も取り入れています。

寅次郎、参加して「これはウォーキング協会を脅かすライバルだ」と危機感を持ったとともに、まだウォーキングがこれほど普及していない時に例会に参加して来た交通機関の関係者に質問されて、例会運営等を教えたことを思い出しました。

主催者の J R は交通機関を利用しての参加者増を図ることが目的ですから、より多くの人に参加しやすいよう、寅次郎の参加当時にあったコース上のチェックポイントやゴールチェックを廃止し、途中まで参加可の改善を行ないました。



歩いた記録の公式な認定制度はありませんが、年間の参加回数によるポイント付与での記念品なども取り入れました。カードによる機械での受付チェックで個人の参加データはホームページでいつでも確認することが出来る最新のシステムを導入しています。

ウォーキング協会も歩いた記録認定を望む参加者が増えていない現状では、参加者の目線での運営方法や参加者の声を反映した新企画を考えないと、これからの参加者を増やすことは難しいと感じました。

今回は 東京に こんなところ-18 です。

平野 寅次郎 拝